

持続可能な開発のための教育（ESD）推進に向けて 高等教育機関が果たすべき役割

鈴木克徳（金沢大学環境保全センター教授）

はじめに

持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development: ESD）については、特に平成14年の「国連持続可能な開発のための世界首脳会議（ヨハネスブルグサミット）」で我が国から提案した「国連持続可能な開発のための教育の10年（Decade of Education for Sustainable Development: DESD）」が平成17年1月から開始されて以来、我が国においても強力に推進されている。我が国は、平成18年3月に国内実施計画を策定し、初期の重点事項の一つとして、大学等の高等教育機関におけるESDの推進を挙げた。

国内実施計画は、平成23年6月に改訂された。改訂の主なポイントは以下のとおりである。

- ・ ESD の普及促進をさらに加速させ、ESD の「見える化」、「つながる化」を推進する。
- ・ 持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれた新しい学習指導要領に基づいた実践、ユネスコスクールの活用など、学校教育を活用してESDを推進する。
- ・ 新しい公共の概念との関係を明確化している。
- ・ 2014年の最終年の先も見据えたESDの更なる促進を図る。

国内実施計画を受け、文部科学省の現代GP等を活用し、様々な大学がESDに取り込むようになった。ESDに取り組む我が国の主な高等教育機関のネットワークとしては以下のものがある。

高等教育機関におけるESDフォーラム

ESDに取り組む大学等の高等教育機関は、情報や経験を共有するため、「高等教育機関におけるESDフォーラム（HESDフォーラム；Higher Education for Sustainable Development）」を形成し、ESDの推進に努めている。

HESDフォーラムは、現代GPで環境・ESDを推進した大学を中心に、大学間のESD関連情報交換を行うフォーラムとして成立し、第1回会合を2007年に岩手大学で、第2回を2008年に立教大学で、第3回を2009年に岡山大学で、第4回を2010年に上智大学で開催している。第5回会合は本年11月に徳島大学で予定されている。サロンのように始められたHESDフォーラムを正式な組織

にするため、規約等を整備し、平成23年2月に参加募集を開始した。フォーラムの目的は、ESDに取り組む高校教育機関が、ESD実践等に関する様々な情報の交換を行い、ESDの質の向上を図ることとされている。

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク

ユネスコスクールを中心とする初等中等教育でのESD支援のため、宮城教育大学の呼びかけにより、平成20年12月にユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUUnivNet）が発足した。平成23年8月現在、北海道教育大学、岩手大学、東北大学、宮城教育大学、玉川大学、金沢大学、三重大学、岐阜大学、奈良教育大学、大阪府立大学、鳴門教育大学、岡山大学、九州大学、立命館アジア太平洋大学及び沖縄キリスト教大学の15大学が加盟している。それら大学の支援等の結果、全国のユネスコスクールは急増し、平成20年3月の24校から平成23年8月には、308校にまで増加している。

ProSPER. Net

国連大学高等研究所が、持続可能な開発のための教育（ESD）を推進するため、アジア地域の高等研究機関の連携・協力を進めるために設けたネットワークである。平成20年6月に北海道大学で開催されたProSPER. Net会合にて正式に設立された。持続可能な開発（SD）やESDについて大学院での研究・教育の実践を行うような、大学院を持つアジア・太平洋地域の教育研究機関により構成されている。当面、ESDを推進する英語での人材育成プログラムの開発、ESDを推進するためのビジネススクールのプログラム開発、ESDを推進するためのガバナンス・プログラム開発等の6つのプロジェクトを推進している。

金沢大学における取り組み

以上のような高等教育機関による取り組みの一環として、金沢大学では、様々なESD関連活動を幅広く展開している。持続可能な社会の構築に向けたパラダイムシフトの必要性やそのための人材の育成については、金沢大学学長メッセ

ージ等に明示されるとともに、報告に盛り込まれている主な提言については、平成 22 年度を初年度とする金沢大学第 2 期中期計画に盛り込まれた。

平成 20 年 7 月に環境教育検討会において、「金沢大学における環境教育・持続可能な社会づくり教育強化の提案 — 持続可能な社会づくりに向けたフィールド重視の環境学」を取りまとめ、環境教育・ESD の推進を大学の重要課題として明確化した。報告では、学部及び大学院博士前期課程までは、専門性を重視しつつ、横断的な環境・持続可能性への視野を併せ持つ、いわゆる「T 字型人材」の育成を目指すとともに、大学院博士後期課程では、アジアからの留学生を念頭に置きつつ、環境・ESD 分野の専門家を育成することを提言している。

この報告を受け、平成 21 年度から、共通教育総合科目において、環境・ESD 入門コースとして「地球環境と持続可能な社会づくり」を開講した。また、里山里海関係をはじめとする環境・ESD 関連科目の見直しと充実強化が図られた。平成 23 年度からは、共通教育科目における特設プログラムとして、「環境・ESD 特定プログラム」を開始した。このプログラムは、各学類での専門教育を超え、持続可能な社会をいかに構築するかについての体系的な知識を修得し、問題解決に向けた実践的能力を身につけることを目指し、地球環境、人間社会、そして両者の相互作用について理解し、循環型社会や持続可能な社会づくりに向けて能動的に考え、問題や課題を見出す能力を養成することを目的としている。必須科目（「地球環境と持続可能な社会づくり」）およびコアとなる科目、現場での実習、関連科目よりそれぞれ要件に従って選択科目を履修し、総単位数 9 単位以上を修得することを修了要件としている。修了者には修了証を交付することとしている。

学部専門教育においては、環境・ESD と関連の深い学類（人間社会学域地域創造学類、理工学域環境デザイン学類、自然システム学類等）における環境・ESD 関連科目の充実強化と他学部、他学科の学生が聴講できるようにする開放科目化の検討が進められている。また、初等中等教育における ESD 推進のため、学校教育学類における ESD の充実強化を図るべく、平成 22 年度に学校教育学類のカリキュラムにおける ESD の現状分析を行った。理科、社会、保健体育等の科目において ESD 的な要素がかなり取り込まれているものの、ESD の全般的な考え方などを解説する科目がないことが明らかになった。この成果を踏まえ、平成 23 年度以降、学校教育学類における ESD 促進方策の検討を進める方針である。

大学院前期博士課程では、平成 23 年度から「日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業」として、自然科学研究科に「環境・エコ技術特別コース」が開設された。また、人間社会環境研究科、自然科学研究科、医学系研究科の大学院博士前期課程において、英語による環境・ESD プログラムを順次開設すべく検討作業が進められている。

大学院後期博士課程では、金沢大学の特徴を活かし、地域の過疎高齢化に対応する地域活性化、環境計測、里山里海や環境と健康問題等を中心に、フィールド重視のカリキュラムの充実強化や JENESIS プログラム等を活用した留学生への教育が推進されている。

環境教育・ESD 強化に向けた石川県内の大学連携

金沢大学では、石川県内に存在する 20 の高等教育機関の連携を強化するため、平成 20～22 年度に実施した「戦略的大学連携推進事業」の一環として、大学間で共通に利用するコンテンツを開発することとし、共通教育に用いる「先進的環境教育・ESD」教材の開発に取り組んだ。平成 22 年度には、他大学の専門家の協力も得つつ、「なぜ今私たちは環境問題に取り組まなければならないか」、「ごみについて学ぶ」の 2 科目についての共通教材を開発した。

初等中等教育における ESD 支援

金沢大学では、学校を中心とする北陸の ESD を支援するため、平成 20 年度から北陸における ESD 推進事業に取り組んできた。主な活動として、初等中等教育関係者を対象とする ESD 講座、幅広い市民を対象とする ESD 普及啓発のための ESD シンポジウム、ESD モデル校における ESD 活動の実施と事例集の作成、学校、教育委員会、自治体、NGO、大学等からなる ESD 推進連絡協議会の開催等を実施している。

終わりに

ESD 推進に向けて大学が果たす役割の重要性に鑑み、金沢大学は、学内における環境教育・ESD カリキュラムの強化、石川県内の他大学との連携、ユネスコスクールを通じた学校教育への ESD 導入支援等の活動を幅広く展開している。その推進に際しては、HESD フォーラムを通じた全国の大学との情報、経験の交流が大きな支えになってきた。HESD フォーラムは、平成 22 年度には規約も承認され、正式な組織となっている。今後、多くの高等教育機関が参加し、大学における ESD がますます活発に推進されることを期待する次第である。